

令和3年4月

**戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）**  
**科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム**  
**プロジェクト企画調査事後評価報告書**

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」  
プログラム総括 唐沢 かおり

**1. 課題代表者**

瀬戸山 晃一（京都府立医科大学 大学院医学研究科 教授）

**2. 課題名**

遺伝子差別に対する法整備に向けての法政策の現状分析と考察

**3. 実施期間**

令和2（2020）年9月1日～令和3（2021）年3月31日

**4. 事後評価結果**

**プロジェクト企画調査の目標達成状況**

本企画調査は、生命医科学技術をめぐる ELSI として、遺伝情報の非医学的利用における遺伝子格差と差別の問題に焦点を当て、社会的処方箋としての法整備の実現に向けて、遺伝情報プライバシー保護のための法整備における諸外国での現状調査、論点整理および価値対立の明確化の調査・分析を行うことを目標として実施されたものである。あわせて、人々の意識や行動の変容を促す手法としてリバタリアン・パターナリズムのナッジの事例分析を行い、その応用可能性の検討にも取り組んだ。

企画調査の結果、遺伝子情報の非医学的利用に関する調査、遺伝子差別禁止法に関する諸外国の動向調査など、実施項目に掲げた基礎的調査や検討については、研究チームの総力をもって取り組まれており、着実に推進されている。また、本企画調査の実施にあたって焦点を絞り込んだ「遺伝子格差と差別」の法規制とナッジ手法の応用可能性についても、一定の方向性が見出されており、企画調査の目標は一部残る課題はあるが概ね達成したと評価する。生命医科学技術の活用（非医学的利用）および人々の行動変容にかかる手法としてのナッジについて、推進・肯定の視点のみならず、あり方そのものの意義や是非を根源から問うような多角的な視点の導入や、多様な立場のステークホルダーとの連携を図ることで、より ELSI 研究としての独創性が発揮されるものと期待する。

以上

## (別紙) 評価者一覧

### 〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

### 〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター  
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役  
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB プロデューサー

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士／慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職はすべて 2021 年 3 月末時点)